JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	タイ工科系大学の学生の進路選択における日本でのインターンシップ経験の影響
Author(s)	山本，創造；近藤，正幸
Citation	年次学術大会講演要旨集，35：462-466
Issue Date	2020-10-31
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/17458
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

２Ｃ０７

タイ工科系大学の学生の進路選択における日本でのインターンシップ経験の影響

○山本 創造（泰日工業大学），近藤 正幸（開志専門職大学）

1. はじめに

ＡＳＥＡＮにおいてタイは製造業の一大拠点であり、自動車関連企業をはじめ多くの日系企業が進出している。盤谷日本人商工会議所（ＪＣＣ）の会員企業数は 1,763 社（2020 年 4 月時点）であり、世界最大規模の在外日本人商工会議所とされている。また、日本貿易振興機構（ジェトロ）の「タイ日系企業進出動向調査（2017 年)」によると、タイの日系企業数は 5,444 社(2017 年 5 月時点)になるという。タイ全体では約 300 万社(タイの中小企業白書（2017 年)）の企業が存在する。このようにタイには多くの企業が存在している。

一方、タイの失業率は異常に低い。国際通貨基金統計によるとタイの失業率はアジアで最低で 2011 年以来 1%未満であり、2015 年の失業率は 0.80%(近藤(2017 年))と極めて低い状況が続く。加えて、タイは高齢化が急速に進んでおり労働人口の減少が始まっている。

このような環境下では、タイにおける日系企業にとって良い人材の確保は大きな課題となっている。日本貿易振興機構（ジェトロ）が行っている「2019 年度 アジア・オセアニア進出日系企業実態調査」によると、タイに進出している日系企業の経営上の問題点で、「従業員の質」を挙げる日系企業は 50.1%(2018 年)、47.0%(2019 年）に上る。

本稿ではタイ工科系大学の学生の進路選択における日本でのインターンシップ経験の影響を分析している。日本でのインターンシップを経験した学生は、その他の学生に比べて日系企業・日本企業へ就職する割合が高くなっているが、その要因として日本でのインターンシップ及び生活経験を通じて日本への印象が良くなる傾向が高まること、また日本企業への好印象が高まる事を明らかにしている。更に、日本でのインターンシップを経験すると、タイローカル企業への就職の志向が下がる一方、在タイ日系企業や日本企業への志向は高まることも併せて示す。最後に今回の調査のまとめと今後の研究課題を述べる。

2. 泰日工業大学における日本でのインターンシップ経験者の高い日系・日本企業への就職率

2.1 泰日工業大学（TNI）

タイ・バンコクにある泰日工業大学［Thai-Nichi Institute of Technology：TNI］は、タイと日本の友好とタイ産業界の人材育成を目的として設立された泰日経済技術振興協会[Technology Promotion Association (Thailand-Japan)： TPA]を母体として 2007 年に設立されたタイの私立工科系大学である。学部は工学部（6 学科)、情報技術学部（6 学科)、経営学部（10 学科）の 3 学部(22 学科)、大学院の修士課程は 5 コースからなる。2019 年度の在学生は学部・大学院合わせ 3,777 名であり、新入学生数は 1,023 名、卒業生は 952 名であった。

学部生は英語に加え日本語も必修科目となっており、日本的ものづくりや日本的経営の教育・研究にも力を入れている。また、奨学金や機材の寄付など、日系企業からの支援も多く、就職する卒業生の約 37%が日系企業、または日系企業と取引のある企業へ就職している。(出所：泰日工業大学大学案内(2020))

2.2 TNI のインターンシップ制度

TNI ではタイ国内外の企業で企業実習（インターンシップ）を実施し所定の単位を付与しており、ほとんどの学生がインターンシップを行っている。工学部、情報技術学部、経営学部（工業経営学科・会計学科）の学生は、大学 4 年生の前期（6 月～9 月)、または後期（11 月～2 月）に約 4 ヶ月間のインターンシップを実施。また、経営学部の一部の学科（日本語経営学科・国際経営学科・日本的人事管理学科）の学生は、大学 3 年生の夏学期（4～5 月）に約 2 ヶ月間のインターンシップを行う。

多くの学生はタイ国内の企業でインターンシップを行う。一方で、2016 年からの 3 年間で約 150 名の学生に日本でインターンシップに参加してもらうプログラムを、日本政府拠出金による AMEICC ［AEM-METI Economic and Industrial Cooperation Committee（日 ASEAN 経済産業協力委員会）]のプログラムに於いて TNI で実施した。このプログラムに参加し日本でインターンシップを行った学生のうち 4 ヶ

月のインターンシップを行う学生は、タイ国内の企業で 2 ヶ月半から 3 ヶ月、その後日本で約 1 ヶ月半のインターンシップを行った。また 2 ヶ月間のインターンシップを行う経営学部の一部学科の学生は日本で 2 ヶ月のインターンシップを行った。

2.3　日本でのインターンシップ経験者の高い日系・日本企業への就職率

TNI 卒業生の進路について、卒業生全体の進路状況と日本でのインターンシップ経験者の進路状況を比較してみると、2016 年度の日本でのインターンシップ経験者は TNI の他の卒業生に比べ日系企業・日本企業への就職率が高い事が分かっている（出所：Yamamoto　(2018)）。

このことは、2016～2018 年度の卒業生全体と日本でのインターンシップ経験者との進路状況の比較でも同様のことがいえる（表 1-1、表 1-2）。もっとも、日系・日本企業を志向しても実際には就職していない学生もいるし、タイ企業への就職を志向しても実際には日系・日本企業に就職する学生もいる（近藤(2017)）。

表 1-1　日本でのインターンシップ経験者の進路状況

日本でのインターンシップ経験者の進路状況	日系・日本企業就職		非日系企業就職		その他進路（進学、フリーランスなど）		合計人数
（2016～2018 年度卒業生）	55 人	56.7%	25 人	25.8%	17 人	17.5%	97 人

（データ出所:泰日工業大学卒業生就職先データから筆者作成）

表 1-2　ＴＮＩ卒業生全体の進路状況

TNI 卒業生全体の進路状況	日系・日本企業就職		非日系企業就職		その他進路（進学、フリーランスなど）		合計人数
（2016～2018 年度卒業生）	498 人	19.8%	1,243 人	49.4%	776 人	30.8%	2,517 人

（データ出所：泰日工業大学大学案内）

3. アンケート調査

3.1　リサーチ・クエスチョン

上述のとおり、日本でのインターンシップ経験者は高い日系・日本企業への就職率を示すが、日本でのインターンシップ経験が日系・日本企業への高い就職率に貢献したのだろうか。それとも、元々日系・日本企業への就職志向が高い学生が日本でのインターンシップに応募しただけなのか。この疑問に答えるために、以下のリサーチ・クエスチョンを設定してアンケート調査を実施することとした。

日本でのインターンシップは参加した学生の

- 日本への印象をよくしたのだろうか。
- 日本企業への印象を高めたのだろうか。
- 日系企業・日本企業への志向を高めたのだろうか。

3.2　アンケート調査の概要

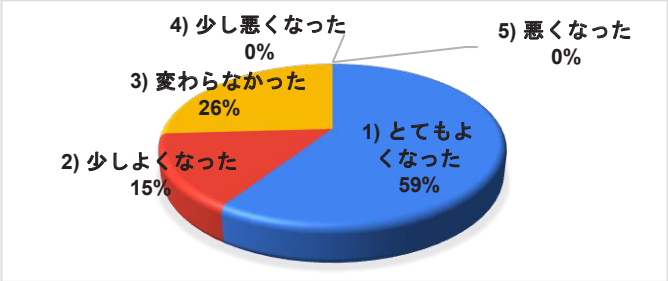
アンケート調査は上記のリサーチ･クエスチョンに基づいて設計し、以下の通りに実施した。対象は、TNI の卒業生のうち、AMEICC プログラムを通じて 2019 年 4～12 月の間に日本でインターンシップを行った卒業生 35 名である。内訳は工学部 13 名、情報技術学部 6 名、経営学部 16 名である。有効回答数は 27 名であった（回答率 77.1%）。

実施時期は 2020 年 8～9 月で、インターネット上で質問票調査を実施した。

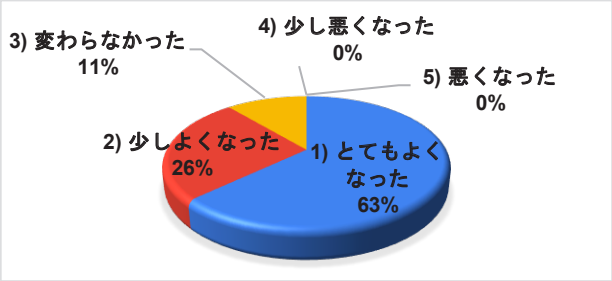
4. アンケート調査結果

4.1　日本への印象

日本でのインターンシップを通じて、日本に対する考え方の変化について尋ねたところ、「とてもよくなった（59%）」、「少しよくなった（15%）」を合わせると 74%になり、日本でのインターンシップの前後で日本への印象がよい方向へ変化したことが分かる（図 1）。「変わらなかった」は 26%で、「少し悪くなった」、「悪くなった」との回答は 0%であった。また、日本でのインターンシップ参加後の日本に対する考え方を訊いたところ、「とてもよくなった（63%）」、「少しよくなった（26%）」を合わせると 89%に上る。「変わらなかった」は 11%で、「少し悪くなった」、「悪くなった」は共に回答者がいなかった。日本でのインターンシップ後は多くの学生が日本に対し良い印象を持っていることが分かる（図 2）。



<図 1>日本での生活を通じて、日本に対する考え方は変わったか

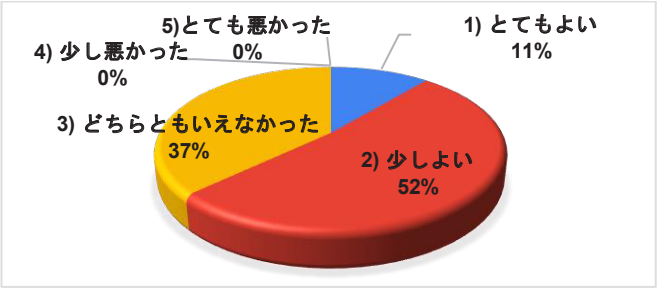


<図 2>日本でのインターンシップ参加後、日本に対する考え方はどうなったか

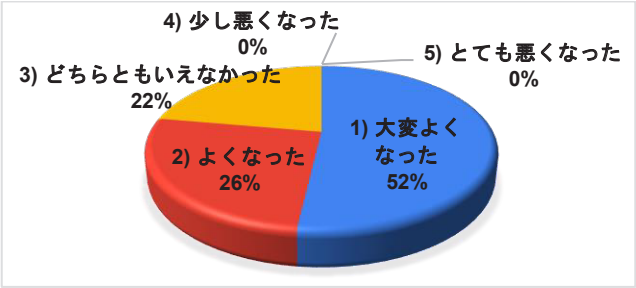
4.2 日本企業への印象

次に、日本企業への印象について日本でのインターンシップ参加の前後でどのように変化したかを見てみる。日本でのインターンシップ参加前は「とてもよい（11%）」、「少しよい（52%）」などポジティブな印象を持っていた学生は 63%だった（図 3）。「どちらとも言えなかった」は 37%、「少し悪かった」、「とても悪かった」との回答はなかった。

これに対し、日本でのインターンシップ参加後は「大変よくなった」との回答が 52%になり、「よくなった（26%）」との回答と合わせると、日本企業に対する印象がポジティブに変化した人は 78%であった（図 4）。「どちらともいえなかった」は 22%、「少し悪くなった」、「大変悪くなった」は 0%であった。日本でのインターンシップ経験が、日本企業に対する好印象を高めたといえる。



<図 3>日本企業に対する印象<インターンシップ前>



<図 4>日本企業に対する印象<インターンシップ後>

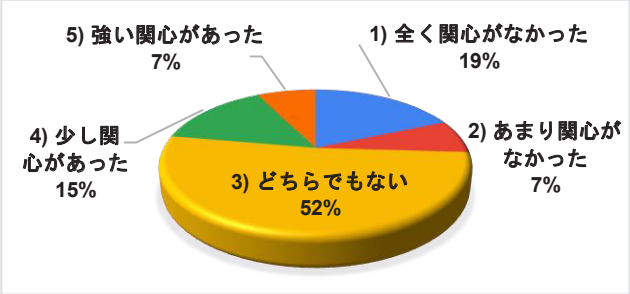
4.3　日系企業・日本企業への志向

日本でのインターンシップ経験が日系企業や日本企業への志向を高めたのか否かを確認するため、「タイ企業への就職志向」、「タイの日系企業への就職志向」、そして「日本企業への就職志向」が日本でのインターンシップの前後でのどのように変化したかを見てみると、日本でのインターンシップ経験は「タイ企業への就職志向」を減少させる一方、「タイの日系企業への就職志向」や「日本企業への就職志向」を高めることが分かった。以下に詳しくみてみる。

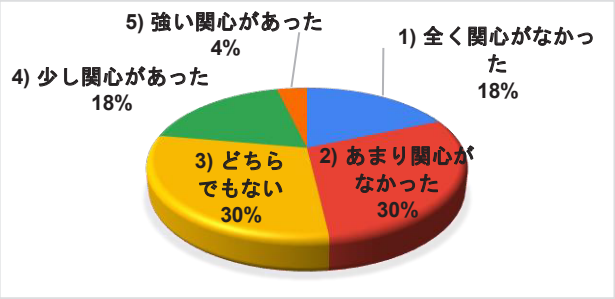
4.3.1　タイ企業への就職志向

はじめに「タイ企業への就職志向」について、「強い関心があった」または「少し関心があった」との回答は日本でのインターンシップ前後でともに 22%であり、変わらなかった。一方、「全く関心が無か

った」または「あまり関心がなかった」との回答は、日本でのインターンシップ前（26%）とインターンシップ後（48%）で 22 ポイント増加しており、タイ企業への就職志向は大きく減っている（図 5、図 6）。「どちらでもない」との回答はインターンシップ前が 52%、インターンシップ後が 30%となり 22 ポイント減り、これらの回答者がタイ企業への就職志向の減少方向へ流れたといえる。



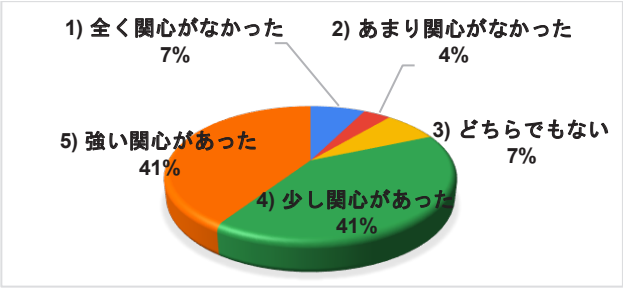
<図 5>タイ企業への就職志向
＜インターンシップ前＞



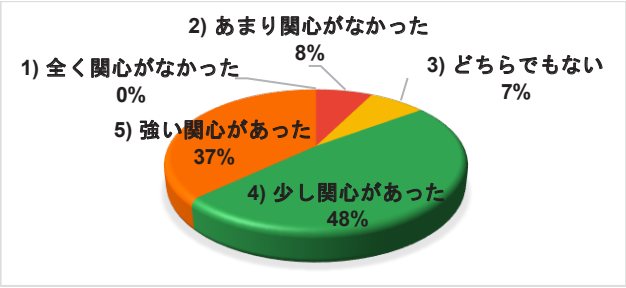
<図 6>タイ企業への就職志向
＜インターンシップ後＞

4.3.2　タイの日系企業への就職志向

次に「タイの日系企業への就職志向」について見ると、日本でのインターンシップの前後で「全く関心がなかった」は 7%から 0%へ顕著に変化した。「全く関心がなかった」の分を吸収したせいか「あまり関心がなかった」は逆にやや増加した。一方、「強い関心があった」または「少し関心があった」との回答は 82%から 85%へ 3 ポイント増加している（図 7、図 8）。なお、「どちらでもない」との回答は日本でのインターンシップ前後で変わらず 7%であった。



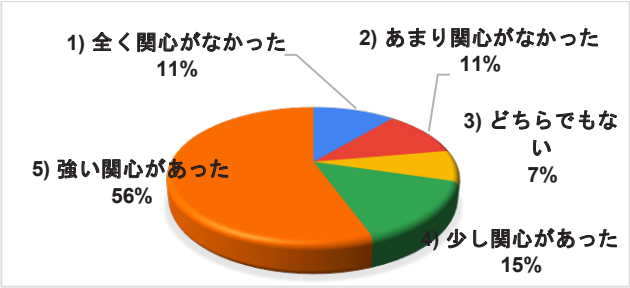
<図 7>タイの日系企業への就職志向
＜インターンシップ前＞



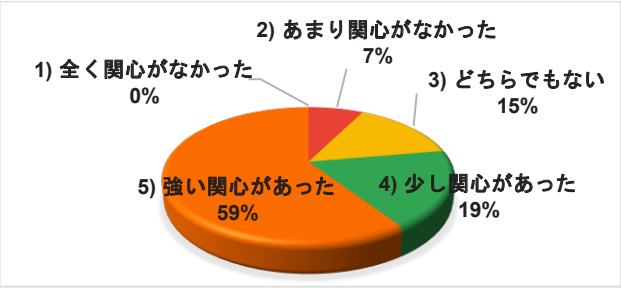
<図 8>タイの日系企業への就職志向
＜インターンシップ後＞

4.3.3　日本企業への就職志向

更に、「日本企業への就職志向」について見ると、「全く関心がなかった」または「あまり関心がなかった」との回答は 22%から 7%へ 15 ポイント減少している一方、「強い関心があった」または「少し関心があった」との回答は 71%から 78%へ 7 ポイント増加している（図 9、10）。「どちらでもない」との回答は 7%から 15%へ増加した。



<図 9>日本企業への就職志向＜インターンシップ前＞



<図 10>日本企業への就職志向＜インターンシップ後＞

5. おわりに(総括)

本研究では、タイの工科系大学の学生の日本でのインターンシップ経験が進路選択に与える影響について、次のことを明らかにした。

- 日本でのインターンシップ及び生活経験を通じて日本への好印象が高まる。
- 日本でのインターンシップを通じて、日本企業への好印象が高まる。
- 日本でのインターンシップを経験すると、タイローカル企業への就職の志向が下がる一方、在タイ日系企業や日本企業への就職志向は高まる。特に、日本企業への就職志向の高まりは顕著である。

以上の研究結果を踏まえ、今後は日本でのインターンシップが与えた影響の大小を規定する要因について分析する予定である。具体的には、学生側の要因（専攻、成績：GPA、奨学金受給の有無、日本語能力：合格した日本語検定試験の級、出身地：バンコク及びその周辺か否か、など）やインターンシップを行った日本企業側の要因（業種、企業規模、所在地、配属先、研修内容、住居：寮かアパートか、など）についてより詳細に分析していくことを考えている。また、インターンシップの影響が大きかった学生や影響が小さかった学生についてケーススタディも行いたいと考えている。

謝辞

本調査のアンケートに回答してくれたTNI卒業生、また、限られた時間でアンケートの配布や回収に協力いただいたTNI就職部のKanidta Naksook氏に感謝します。

参考文献

近藤正幸、「タイの日系企業志望の若手エンジニアの特性」、研究･イノベーション学会第32回年次学術大会講演要旨集、京都、2017年10月28－29日、pp.740-744。

泰日工業大学大学案内 “Guide to TNI ものづくり教育-TNIストーリー”、2020年5月、pp.16。

日本貿易振興機構、「2019年度 アジア・オセアニア進出日系企業実態調査のアジア・オセアニア調査」(2019年11月)。

Yamamoto, Sozo (2018), “The Effect of an Internship Experience in Japan on Thai Students' Choice of Employment”, 5th International Conference on Business and Industrial Research (ICBIR), Bangkok, Thailand, May 17-18, 2018, pp.500-505.